

## チームメディカル (TM) 最新の状況 2020/2/8

2月8日(土) 第12回 TM ミーティング「チーム医療」のための「演劇的ワークショップ」  
16歳の仕事塾

3学期2回目の TM ミーティングは16歳の仕事塾から櫻井晋さん、水沼葉子さんをお迎えしてチーム医療を考える端緒として演劇的ワークショップを行いました。

まず、ファシリテーターの櫻井さんからグループとチームのちがいについて考えるという問題提起があり、アメリカの経済学者スティーブ・ロビンスの定義の紹介からワークショップがはじまりました。そこから訪問看護師として在宅医療にもかかわっておられた経験もお持ちのサブファシリテーターの水沼さんからチーム医療についての講話をいただきました。さまざまな職種のひとがチーム医療にかかわっていることを確認するブレインストーミングでは TM 生から次々に職種の名前が挙げられますが、それ以上に多くの職種のひとが医療にかかわっていることが再確認できました。また、病院と在宅医療の連携がうまくいくこと、その時に応じてチームが編成されるのがチーム医療の意義であり、それはふたつの歯車がかみ合いながら回転する姿になぞらえることができるというお話をいただきました。チームの中ではだれが偉くてだれが下かといった上下関係なしに、それぞれがそれぞれの役割をもち、お互いに補い合いながら患者あるいは利用者の QOL の向上に直結するという櫻井さんのまとめで WS にうつりました。

演劇的ワークショップの導入として行ったグループインタビューでは、聞いているだけでもやり取りがどんどん上手になっていくという気づきや、Yes-no Q よりも open-end Q であったほうが話しやすい、相手の目をみて話したほうが気もちの伝わり方が変わってくる等今後の生活に役立てていけるような気づきもあったようです。その後も櫻井さんの絶妙な解説のおかげで笑いを交えながら和やかにワークショップは前半を終えます。

小休止をはさんだあと、メインセッションであるふたつのチーム劇の創作に入り、入院病棟で手術を前に逃げ出したいくてたまらない入院患者をどのようにまわりが安心して手術を受けられるように説得するかという演劇をつくりました。この演劇創作をとおして、チームとしてどのようにメンバーとかわることができたかを疑似体験することが目的でした。最後にグループごとに演劇を発表し、相手のことを肯定的に受け入れ行動を決定づけていくことについてふり返りを行いました。

今回のワークショップはチームメディカルのために16歳の仕事塾のスタッフの方々にオリジナルの内容で組んでいただいたワークショップでした。今日チームで考えたさまざまなことがらが長く記憶にとどまってくれるよう願っています。

生徒の感想

- ・ コミュニケーションについて考えることはできるが、考えたことを行動に移すという

のがとても難しいなと思いました。少ない情報量の中で、相手のことを理解して、考えながら話すというのも難しかったです。

- ・ 演劇の時に患者さんの気持ちを理解しようと思ってもなかなか想像できず、どうしたらよいのかと考えつくすことができなかつたように感じました。話すとき 1 つの話題を掘り下げることで、会話がはずみ、そういった行動がきっかけで人の不安をわかってあげ、気持ちを楽にしてあげられることがあるのかもしれないと思いました。
- ・ 他人とのかかわり合いが大切だと思った。私は一人のほうが楽だと思ってしまいがちだが、他人と関わり合い、支えあう力が重要なのだと思った。

